

# 令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【常盤中学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	次年度に向けて (3月)
思考・判断・表現	年度末評価 (2月)

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p>&lt;学習上の課題&gt; 国語・数学の「知識・技能」において、高い水準を維持しつつ、令和5年度全国学力・学習状況調査の自校の結果より2pt向上を目指す。</p> <p>&lt;指導上の課題&gt; 生徒一人ひとりが課題を設定し、解決する能力をつける授業を学校全体で取り組んでいく。</p>	⇒ 教科会を月1回行い、自ら課題設定できる授業の検討を行う。 【学びの指標にて、自ら課題を設定できる項目を昨年度から1pt向上させる。】
思考・判断・表現	<p>&lt;学習上の課題&gt; 国語の「読むこと」、数学の「資料の活用(資料を読み取ること)」において、高い水準を維持しつつ、令和5年度全国学力・学習状況調査の自校の結果より1pt向上を目指す。</p> <p>&lt;指導上の課題&gt; 朝読書の時間を確保し、生徒が静かに書物を読む環境づくりを全職員で行う。</p>	⇒ 朝読書の時間の10分間を継続し、時間を確保することで、日頃から書物に親しむ機会を増やす。 【和5年度全国学力・学習状況調査の自校の結果より1pt向上を目指す。】

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等	児童生徒の 学力の向上
思考・判断・表現	結果提供(2月)	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	平均正答率が国語も数学も埼玉県や全国平均より10%~15%上昇しており基礎知識の定着が図れている。理由としては、各教科の基礎部分の授業の検討が十分にされているからと考えられる。	
思考・判断・表現	平均正答率が国語も数学も埼玉県や全国平均より15%~20%上昇しており思考・表現・判断の力が付いている。また数学のデータの活用において平均正答率が高いことから、普段の授業などでデータを解析する力が身につけていると考えられる。	

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能		
思考・判断・表現		

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	月1回の教科会を実施し、自ら課題を解決する授業の検討ができた。	教科会の内容を、校内研修で検討し、精査していく。
思考・判断・表現	B	朝読書を継続的に行うことができ、表現力は向上してきた。	朝読書の質を高め、さらに読解力を深めることで生徒の表現力も高める。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)